

3. 第 41 回バレーボール競技実施要項

(下線は追加箇所)

1. 競技種目

バレーボール6人制競技(男子及び女子の2種目)とする。

2. 競技規則

大会開催年度の(財)日本バレーボール協会6人制競技規則及び本大会申し合わせ事項による。ネットの高さは男子2m43cm、女子2m24cmとする。

3. 出場資格

男女とも、加盟団体単位で2チームまでとする。但し、加盟団体単位でチームを編成できない場合は当該ブロックに限り、連合チームを編成することができる。方法として単独チームを組むチームに加入、また単独チームを編成できない加盟団体同士がチームを組んでもよい。この場合、後者については、連合であることが明確なチーム名にすること。

4. チームの編成

- ①チームの編成は、監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手12名の計15名以内とする。
- ②監督、コーチ、又はマネージャーが選手を兼ねる場合は選手名簿にも登録されていなければ選手として出場できない。

5. 競技方法

- ①予選リーグ戦をおこなった後、勝ち残った上位8チームによる決勝トーナメント戦をおこなう。但し、参加チーム数が多いときは、予選トーナメント戦によるものとする。
- ②予選リーグ戦及び準決勝戦、3位決定戦は、3セットマッチとする。決勝戦は、5セットマッチとする。

6. 使用球

(財)日本バレーボール協会検定18枚張り5号球人工皮革カラーボールを使用する。

※ボールメーカーは実行委員会で決定する。

7. 組み合わせ

組み合わせは、監督・主将等会議において抽選により決定する。なお、1次予選ではそのブロックに属する加盟団体チーム同士の対戦は行わない。また男女とも前回優勝・準優勝チームはシードする。

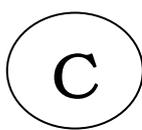
8. 表彰式

- ①表彰式は決勝戦終了後に行う。
- ②統一服装で参加すること。

9. 注意事項

- ①試合開始前・セット間及び終了後の手順は別表プロトコールのとおりとする。

- ②試合開始は、特に時間の指定のあるものを除き、追い込み方式で行う。なお、同チームの試合が連続する場合は 15 分間の休憩の後プロトコールに入る。
- ③オーダー用紙は、キャプテンがトスをするとき提出する。
- ④公式練習からはエントリーされた者だけが競技場に入場できる。
- ⑤負傷の原因となるピン、指輪、腕輪、かぶりもの、その他金属装身具等を身につけて競技してはならないが、眼鏡は自分の責任において使用する。
- ⑥主将は、ジャージ色と異なった色の幅 2cm、長さ 8 cmのマークをユニフォームの胸部の番号の下に明確に付けること。
- ⑦監督・コーチ・マネージャーは下記のマークを左胸部に付けること。マークの大きさは直径 6cm 程度で各チームが準備すること。



10. 本要項の改正

- ・一部改正 2004年2月22日 第6回全国委員会
- ・一部改正 2004年2月19日 第8回全国委員会
- ・一部改正 2008年2月3日 第3回本委員会
- ・一部改正 2009年2月8日 第3回本委員会

【本大会申し合わせ事項】

1. サーブ開始合図について

主審は、サーブ開始の前にプレーヤーと目線を合わせ、目線を確認した後、サーブ開始動作及び吹笛を行う。サーブを行うプレーヤーは、迅速にサーブ場所に移動して、サーブ開始前に主審と目線を合わせること。

【説明】過去大会において、主審が目線を確認せずにサーブ開始の吹笛を行い、聴覚障害者プレーヤーがこれに気づかず、ゲームの進行遅延があったため。また8秒ルールの誤適用を防止するため。

2. 反則又はボールデッドの周知方法について

主審及び副審は、プレーヤーが反則又はボールデッドの吹笛に気づかずプレーを続行している場合、ネットを揺らす、副審がコートに入る等して、プレーを中断することができる。

【説明】過去の大会において、ホイッスルに気づかずラリーが継続したため。

3. メンバーチェンジ及びタイムについて

主将が監督を兼ねてコート上にいる場合、主審・副審は、メンバーチェンジやタイムの要求動作に十分注意すること。また、当該プレーヤーはタイム等を要求する場合、迅速に主審又は副審に近づき、要求ジェスチャーを大きくする等、その対応を工夫すること。

【説明】過去の大会において、音声なしで、ジェスチャーによるタイム要求をしたが、受け入れられなかったケースがあった。(プレーヤーの中には、音声でタイムやメンバーチェンジを告げられない者もいる。)